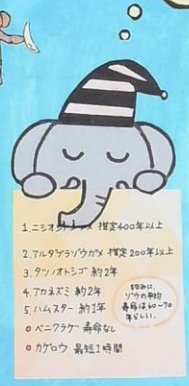
おもしろミステリー

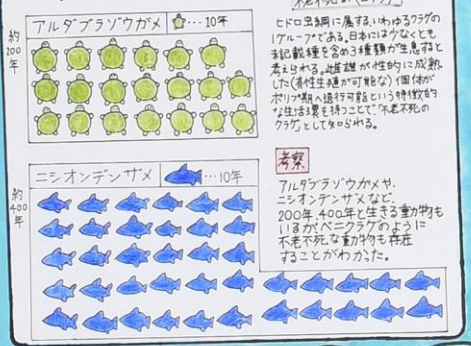
動物の寿命

わかりやすくまとめると…



ミステリー1.長生きな動物

予想! サメが1番長生きだと思う。体が大きくて、エサをたくさん食べるから。



不老不死なベニクラゲ

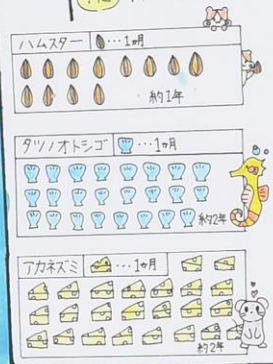
ヒドロ虫綱に属するいわゆるクラゲのグループである。日本には少なくとも3記載種を含め3種類が生息すると考えられる。雌雄が性的に成熟した(有性生殖が可能な)個体がポリプ期へ退行可能という特徴的な生活環を持つことで「不老不死のクラゲ」として知られる。

考察

アルダブラゾウガメやニシオンデンザメなど、200年、400年と生きる動物もいるがベニクラゲのように不老不死な動物も存在することがわかった。

ミステリー2.短命な動物

予想! 寿命が短いと聞いたことがあるハムスターが一番短命だと思う。



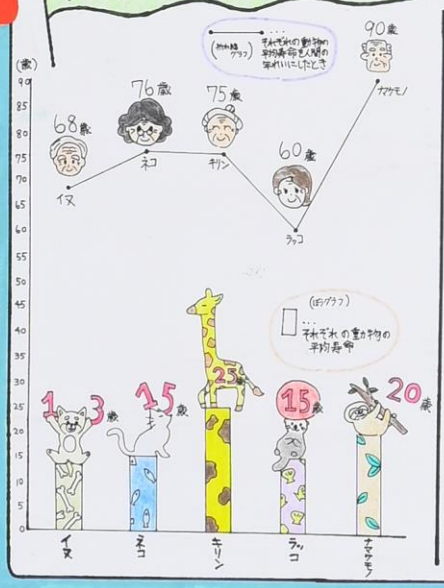
最も短命な昆虫カゲロウ

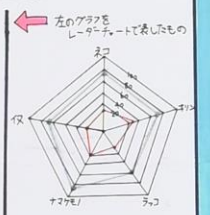
カゲロウは伝承い物の例えにされてきた通り羽化後の寿命は1時間～2週間(ダメが1日～2日)と大変短い。そのため、羽化や繁殖行動は一斉に起こる。

考察

ハムスターは1年で、タツノオトシゴやアカネズミは2年という短い寿命だが「動物」というしばりだけではなく、「生き物」とすると、昆虫であるカゲロウは、もっと短い、最短1時間である。このようなことから、人間の寿命はかなり長いものだということもわかる。

ミステリー3.いろいろな動物 人間にすると何歳?



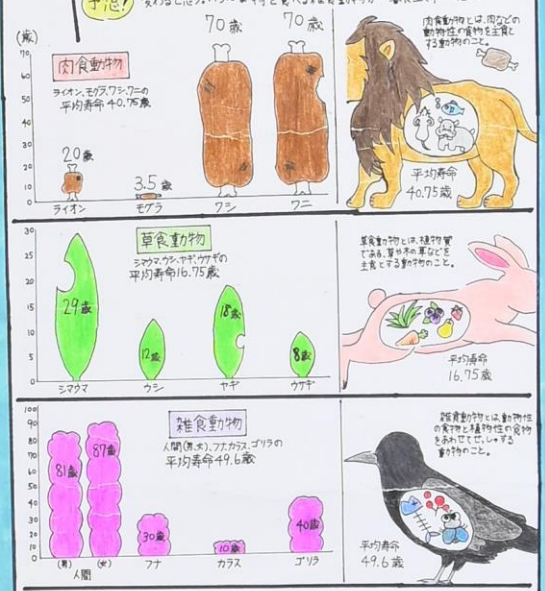


考察

イヌの平均寿命を人間の年れいにすると、68歳、ネコは76歳、キリンは75歳、ラッコは60歳、ナマケモノは90歳。このようになるかどれも、動物の平均寿命より、人間にしたときの年れいの方が高くなっている。また、平均寿命が同じ、ネコとラッコでも人間にしたときの年れいが76歳と60歳で大きく変わっていることがわかる。したがって、ネコの1ヵ月が、人間の1歳にあたいするのと同じように他の動物も1ヵ月に対して、人間にしたときの年れいが違うため、ネコとラッコのように差ができているのだと考えられる。

ミステリー4.食べる物によって寿命は変わるのか?

予想! 変わると思う。いろいろな物を食べる雑食動物が一番長生きだと思う。



考察

食べる物によって寿命は変わった。肉食動物が40.75歳(ライオン、モグラ、ワシ、ワニの平均寿命)、草食動物が16.75歳(シマウマ、ウシ、ヤギ、ウサギの平均寿命)雑食動物が49.6歳(人間(男、女)、フナ、カラス、ゴリラの平均寿命)で、雑食動物が一番長生きだった。しかし、肉食動物、草食動物、雑食動物、それぞれ、全体の平均年れいで比べているわけではないため、正確な答えはわからない。一部の資料では、同じくらいの大きさの動物なら、肉食動物よりも草食動物の方が長生きする傾向があるとされている。そのため正確なことを調べるには、他の動物や、食べる物など、幅広く検討する必要がある。

まとめ・気づき

動物の寿命は、食べる物や生活によって異なっていた。同じ肉食動物や草食動物の中でも寿命はちがっていた。例えば肉食動物のモグラ(平均寿命3年半)とワシ(平均寿命70年)では、約67年も差があり、草食動物のウサギ(平均寿命8年)とシマウマ(平均寿命29年)でも、約21年の差があった。他にも動物の寿命についての不思議がたくさんあった。他に気になることもも、とくわしく調べてみたいと思う。